

共催：第78回SGRAフォーラム・第5回アジア文化対話

アジアにおけるジェンダーと暴力の関係性

参加申込

2025年9月13日（土）9:30～17:30

沖縄大学3号館101教室およびオンライン

言語：日本語・英語（同時通訳）参加費無料



沖縄はアジア太平洋戦争時に住民の4人に1人が死亡したとされる激しい地上戦を経験している。さらに戦後も日本国内の70%を超える米軍の施設が集中する「基地の島」と化した。女性や子どもを含む非戦闘員が犠牲となった「戦場」の暴力は、現在進行形のグローバルな課題を再考察する上で欠かすことができない題材である。軍事的な対立の際に、私たちはどのように非戦闘員の命を守るための観点を保ちうるだろうか。ジェンダーからの問いが必要な理由がそこにある。沖縄で開催されるアジア文化対話フォーラムでは、地上戦を経験し、今なお米軍基地による性暴力事件が絶えない沖縄で、ジェンダーという弱者への配慮を前提とする視点から「過去・現在・未来」につなげる普遍的価値を探る。

【スケジュール】

9:30 ご挨拶：今西淳子(SGRA)、山代 寛(沖縄大学学長)、フォーラムの紹介：洪ユンシン(沖縄大学)

セッション① 基調講演・司会：デール ソンヤ(SGRA)、モデレーター：洪ユンシン

基調講演：富山一郎(同志社大学)「暴力に抗する「他者」の眼差し」(日本語)

コメンテーター：宮城晴美(沖縄女性史研究者)、ロバート・リケット(和光大学元教授)、グオ・リフ(筑波大学)

11:00 休憩

11:30 セッション② 交差性・司会：イドジーエヴァ・ジアーナ(東京外国語大学)

発表① 高里鈴代(「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表)、「交差する差別とジェンダー」(日本語)

発表② Intan Paramaditha(マッコリー大学)、「インドネシアのフェミニズム運動」(英語)

コメンテーター：Nyi Nyi Khaw(ブリストル大学)、梁絃娥(ソウル大学)

13:00 昼食・休憩

14:00 セッション③ 戦争とジェンダー・司会：リオ・アーロン(シアトル美術館)

発表① 山城紀子(沖縄タイムズ元記者・フリージャーナリスト)、「沖縄戦・米軍統治下の福祉と女性」(日本語)

発表② Jose Jowel Canuday (アテネオ大学)「平和の最後の数マイル：ミンダナオ島バンサモロ地域のジェンダー化された最前線における長期戦争の後に何が起るのか」(英語)

コメンテーター：福永 玄弥(東京大学)、増淵あさ子(立命館大学)

15:30 休憩

16:00 セッション④ これらに向かって・司会：洪ユンシン、デール ソンヤ

発表① 徳田彩(沖縄キリスト教大学院大学在学学生)、松田明(沖縄キリスト教大学院大学卒業生)、「沖縄の基地暴力とジェンダー：CSW国連女性の地位委員会に性暴力を訴えるー沖縄県内の動きを中心にー」(日本語)

発表② Memee Nitchakarn (タイの学生活動家)「タイの若いフェミニスト運動の流れ」(英語)

発表③ 中塚静樹(沖縄大学在学学生)「沖縄戦の記憶を聴く若者たち：証言者との交流で学ぶ記憶の継承」(日本語)

コメンテーター：親川裕子(沖縄大学・Be the Change Okinawa代表)、上野さやか(沖縄大学・エンパワメントラボ・おきなわ共同代表)、Bonni Rambatan (Rainbow Panda代表)

17:30 フォーラム閉会

【問い合わせ】

SGRA事務局 sgra@aisf.or.jp

沖縄大学地域研究所

chiken-staff@okinawa-u.ac.jp



基調講演：「暴力に抗する「他者」の眼差し」

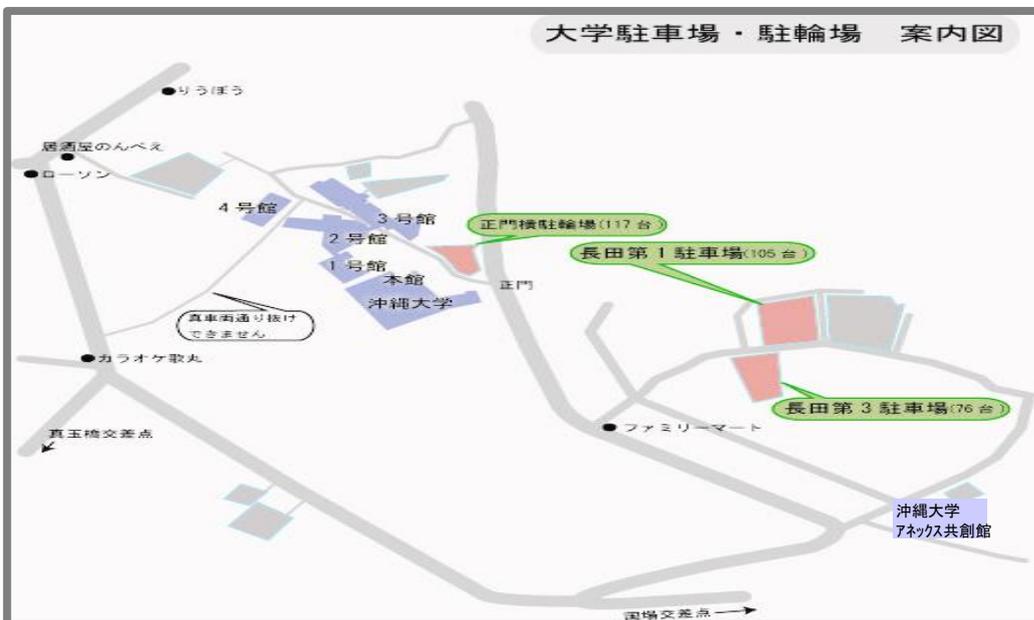
継続する戦争を他人事のように語り、すでに刻印された暴力の痕跡をなかったことのように放置し続けることにより存立する世界が今だとしたら、暴力に抗することは、このどうしようもない今の秩序への内省的な問いとともに、なされなければならない。そしてその問われるべき秩序の根幹には、法や制度だけではなく、言語的な秩序がある。かかる言語的秩序が暴力を容認し追認しそして否認しつづける日常を構成しているともいえるだろう。だからこそ内省的な問いとは、語っても語ったことにされない声や、言葉を持たない傷に会うことでもあるのだ。傷はどのような関係性において言語化できるのか。それは、いかなる言葉で平和を描くのかという、言葉自体への問いでもあるだろう。アジアという場に刻印されつづけてきた暴力の傷痕に向き合うとは、こうした声や傷との出会いを丁寧に再編集し、暴力を容認し追認し否認してきた今の世界が、そこかしこで別の社会性への予感を抱え込んでいくプロセスなのではないだろうか。そのようなプロセスを担う、場や言葉について考えたい。

富山一郎(同志社大学)

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授。著書に、『近代日本と「沖縄人」』(日本経済評論社、1990年)、『戦場の記憶』(日本経済評論社、1995年)、『暴力の予感』(岩波書店、2002年)、『流着の思想』(インパクト出版会、2013年)、『始まりの知』(法政大学出版局、2018年)、がある。最近考えていることは、思索という行為が集団を構成するなら、いかに思索し、いかなる集団を作り上げていくのかということが、学知においてもっと問われるべきことなのではないか、それが思想という問題なのではないか、ということです。



大学駐車場・駐輪場 案内図



◆ 駐車場のご案内 ◆

お車でのお越しの方は、下図の**長田第1・第3駐車場**をご利用ください。



◆ キャンパスマップ ◆

正門からまっすぐ上がって右手の建物の自動ドアに入って目の前の教室**(3-101)**です。
開場・受付は9時から行います。

